

「マイナビ 2022年卒大学生 活動実態調査(10月中旬)」を発表

2022年卒業予定の大学生・大学院生の10月中旬時点での内定率は87.2%

コロナ禍における就職活動のアドバイスは「人との交流機会を持つこと」

株式会社マイナビ（本社：東京都千代田区、代表取締役 社長執行役員：中川信行）は、2022年卒業予定の全国の大学生、大学院生を対象に実施した、「マイナビ 2022年卒大学生 活動実態調査（10月中旬）」の結果を発表しました。（調査期間：2021年10月10日～10月14日）

《TOPICS》

- ◆ 2022年卒業予定の大学生・大学院生の10月中旬時点での内定率は87.2%【図1、2、3】
- ◆ 面接形式について「全工程WEB化しても良いと思う」という学生が3月1日時点と比較して減少。「最終面接は対面が望ましいと思う」学生が31.7%で、3月1日時点（25.4%）と比べて増加。【図4】
- ◆ 後輩へのコロナ禍における就職活動のアドバイスは「人との交流機会を持つこと」、「WEB・対面どちらの形式の面接にも対応できる準備をしておくこと」【図5】

【調査概要】

2022年卒業予定の大学生・大学院生の、10月中旬時点での内定率は87.2%、平均内定保有社数は2.3社だった。9月末時点と比べると内定率は0.6ptの増加、平均内定保有社数は変わらない結果となった。就職活動継続意欲を見ると、就職活動を終了した学生は78.9%で、全体の約8割の学生が入社先企業を決めて就職活動を終えている。【図1、2、3】

就職活動における「対面」「WEB」の使い分けについて聞いたところ、3月1日時点では「全工程（会社説明会～最終面接）WEB化しても良いと思う」が39.3%で最多であったが、10月中旬時点^{※1}では16.1pt減の23.2%だった。一方、10月中旬時点では「会社説明会～最終面接前まではWEB化してもいいが、最終面接は対面が望ましいと思う」という学生が31.7%で最多となり、3月1日時点と比較して6.3pt増加している（3月1日時点：25.4%）。3月時点の22年卒学生は、WEB開催のインターンシップ等を経験しており、選考のWEB化に対して寛大だった。しかし、実際に就職活動を経験して対面のコミュニケーションの重要性を実感したことから、次年度以降の就職活動においては、WEBの利便性は残しつつも、対面と併用での実施が望ましいと考えた学生が多かったと推察される。【図4】
※1 22年卒（10月中旬）調査では「次年度以降の就職活動がどう実施されるべきだと思うか」という形式で調査

内定を得た学生に対して、23年卒の就職活動生へのアドバイスを聞いたところ、「人との交流機会を持って情報収集を積極的に行うことが大事」といった回答が多かった。そのほか、「WEB面接だけでなく対面での面接に慣れる練習も忘れないことが重要」という回答もあり、画面越しならではの伝え方の練習が必要なWEB面接と、実施頻度が低く場数を踏むことが難しい対面面接の、どちらの形式の準備も忘れずに行っておくことが重要だと感じているようだ。【図5】

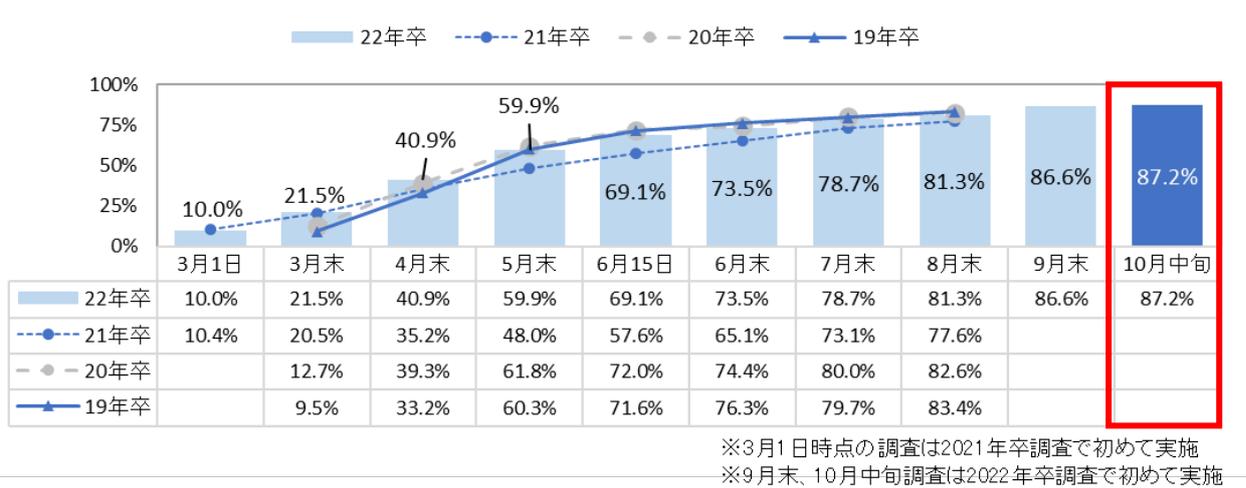
【調査担当者コメント】

22年卒の就職活動も、準備期間から最終面接の時期に至るまで、コロナ禍での移動制限や授業のオンライン化など、さまざまな制限を強いられる年となりました。そんな経験を経た22年卒の学生が、活動のアドバイスとして多くあげているのが、「周囲とのつながりを保つ」ことです。情報収集の面でも、前向きな気持ちを持って活動を続けるうえでも、人との交流の重要性を感じた学生が多かったようです。

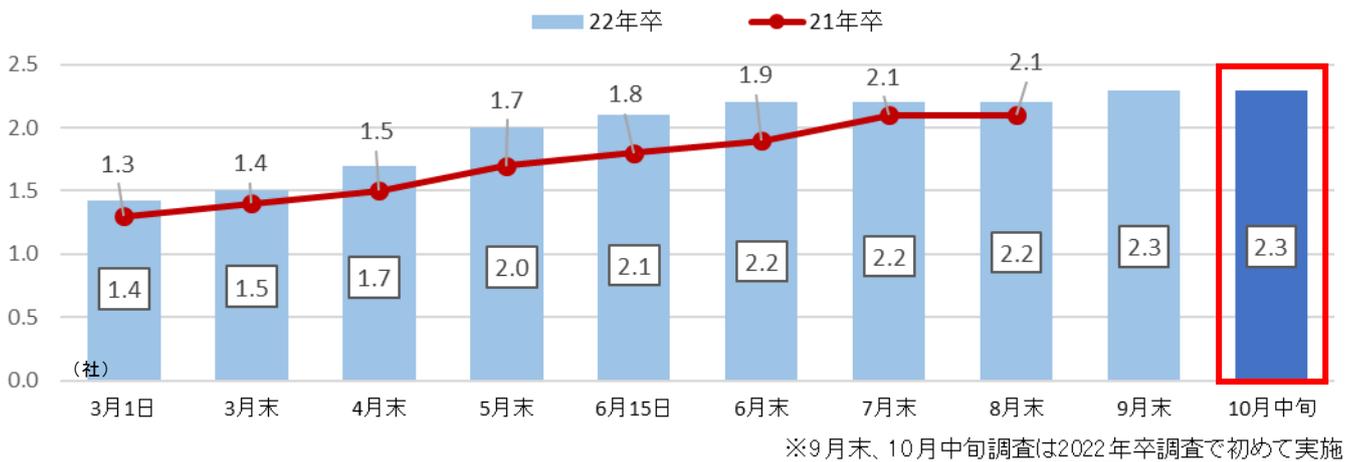
就職活動を続ける 22 年卒の学生や、準備期間中の 23 年卒の学生のみなさんには、コロナ禍で人との交流機会が少ない状況でも一人で抱え込まず、周囲をうまく頼りながら活動して行ってほしいと思います。

株式会社マイナビ キャリアリサーチラボ 研究員 沖本麻佑

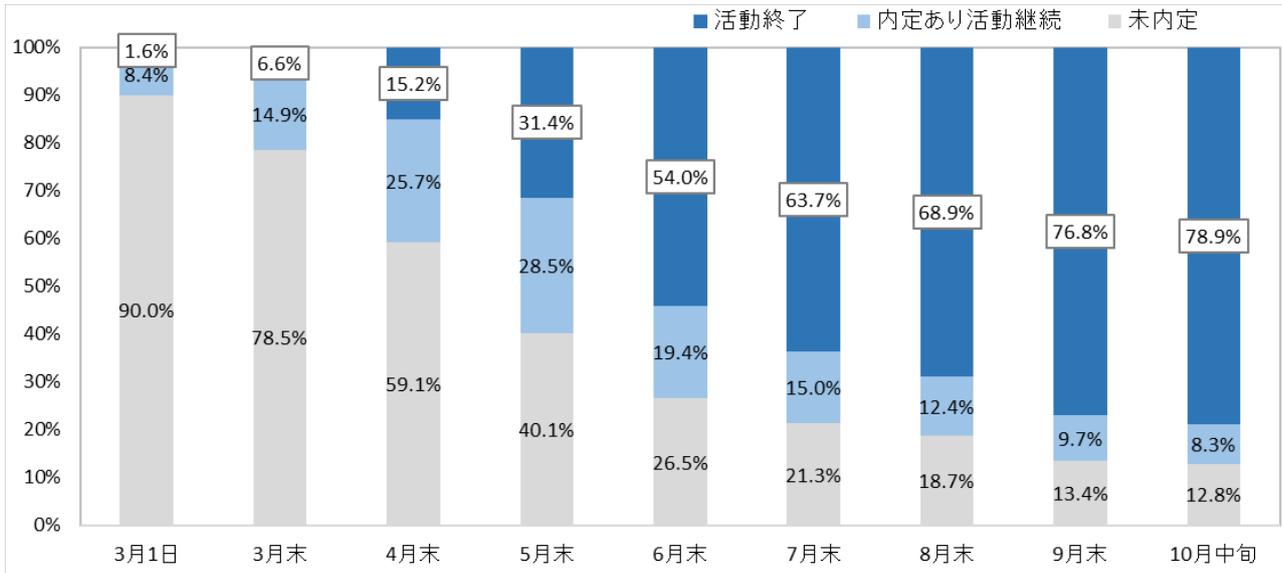
【図 1】内々定率経年比較



【図 2】平均内々定保有社数

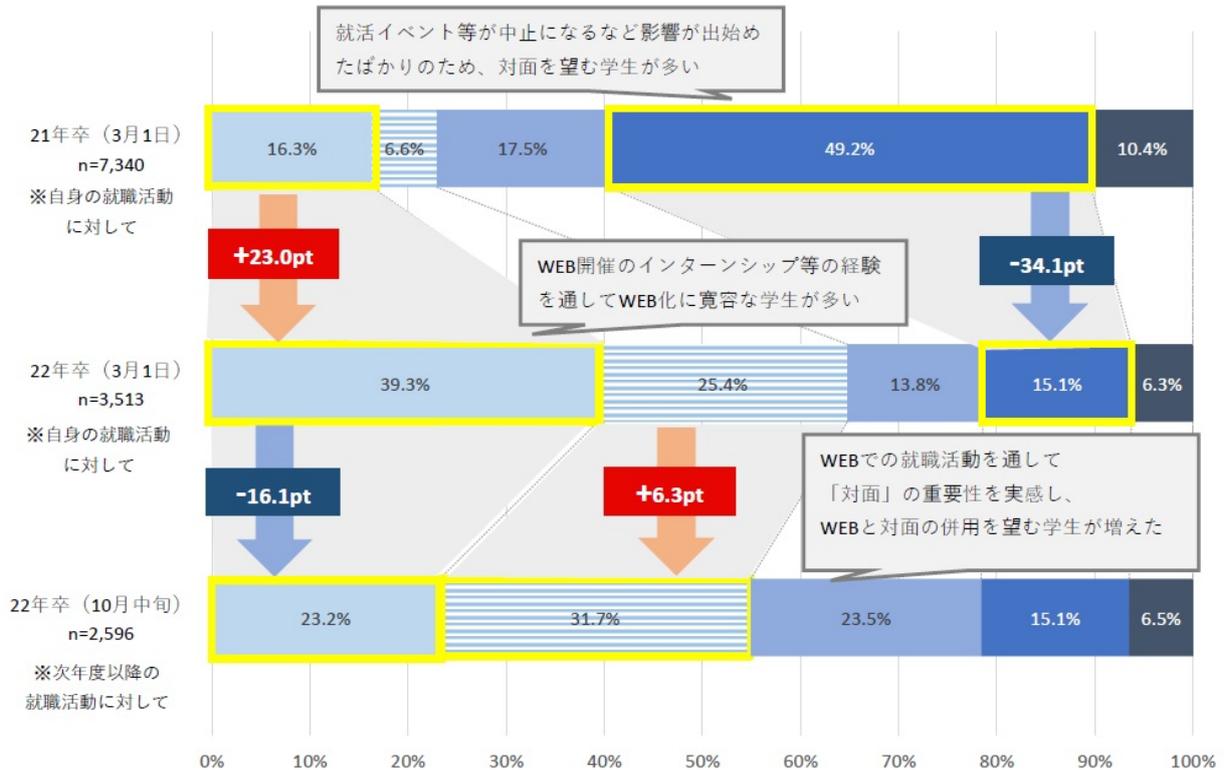


【図3】就職活動継続意向



【図4】就活における「対面」または「WEB」での実施について、考えに一番近いもの

- 全工程（会社説明会～最終面接）WEB化しても良いと思う
- 会社説明会～最終面接前まではWEB化してもいいが、最終面接は対面が望ましいと思う
- 会社説明会～1次面接まではWEB化してもいいが、2次面接以降は対面が望ましいと思う
- 会社説明会はWEB化してもいいが、1次面接以降は対面での実施が望ましいと思う
- 全工程（会社説明会～最終面接）対面での実施が望ましいと思う



※22年卒(10月中旬)調査では「次年度以降の就職活動がどう実施されるべきだと思うか」という設問で調査

【図5】 <入社先企業を決めた学生限定>23年卒の就職活動生に対するアドバイス
※1,307名のコメントより抜粋

文理男女	23年卒の学生へのアドバイス
理系女子	<p>周りと情報共有をしたり、企業研究を一緒に行うなど、協力した方が良いと思います。私が就活を始めた頃は、コロナで休校期間だったので、周りの就活状況もよくわからないまま進めていました。周りと情報交換をするという習慣がないまま、最後まで就活を行ったので、自分が周りよりもしっかりやれているのか、この時期何をやるべきなのか、という情報をあまり手に出来ていませんでした。友達と協力して就活をすれば、きつくても1人でやるよりかは楽しいと思います。</p> <p>また、スマホの活用もオススメです。Twitterには就活生向けにこの時期何をすべきかを発信している人がいたり、OB訪問が出来るアプリもあるようです。私はTwitterをやっておらず、アプリも特定のものしか使わないのですが、今年に入って研究室の後輩が教えてくれました。このように、便利な情報を知るという意味でも周りとの協力は重要だと思います。私はアプリの存在を聞いたときに、自分もスマホを上手く活用出来れば、違う結果が出ていたかもしれないとも思いました。なので、就活サイトを見るのも大事ですが、それだけでなく、使えるものはフルで活用するようにすると良いと思います。</p>
文系男子	<p>友人とほとんど連絡を取らずにいたので就活のスタート時期が分からず、解禁直前の2月期に就活を始めてしまい最終苦しむこととなった。大学の同期など「横のつながり」の重要性を痛感したのでコロナ禍で難しいとは思いますが、そういった機会はあるだけ多い方が精神的にも就活の戦略的にもかなり有効だった。</p>
文系女子	<p>自己分析をもっと早くに行っていればよかったと感じた。また、コロナ禍で先輩と直接話をする機会が少なく、情報収集が難しく感じたため、より沢山の人と交流をすることも大切だったと思う。</p>
文系女子	<p>今年はコロナで説明会や選考などがWEBやオンラインでの実施だったので、最終面接だけ対面という形式が多かった印象です。遠い場所や雨の日の場合わざわざ向かわなくても良いという点や、移動時間がない分、同じ日に別の会社の説明会に参加する余裕があるなどのメリットはありました。しかし最終面接などに進み、いざ対面になった際に、良くも悪くも画面上で感じていた雰囲気と違ったという事が多々ありました。オンラインの時よりも範囲が良いという事もあれば、その逆もあったので、対面で説明会などが実施されている場合は、やむを得ない場合以外には積極的に対面に参加することをオススメします。面接なども、対面を希望した方が意欲が伝わる気がしました！zoomやFaceTimeでの面接を経験しましたが、何度か回線が悪くなり面接がスムーズに進まないという経験もしたので、しっかり自分の思いを伝えられたのか不安になった事もありました。</p> <p>対面とオンラインのメリット・デメリットをしっかりと踏まえた上で、効率よく就活を進めてください。</p>
文系女子	<p>オンラインの面接は家で受けるなどどうしても自分の中でスイッチが入りにくかったので、学校などで受けられる場所があればその方が良いかなと思います。</p> <p>また、対面の面接等では面接官の方に自分の雰囲気やオーラを掴んでもらいやすいですが、オンラインでは自分の人柄や雰囲気があまり相手に伝わらないので、もしオンライン面接等があったら言葉で自分の魅力をきちんと伝えられるようにしてください！！</p>
文系女子	<p>私の後悔はグループ面接が苦手なままなかなか発言ができなかったことです。エントリーシートや面接練習などは学内のキャリアセンターで練習や添削をしてもらっていたため、問題なかったのですが、グループ面接は練習できず、元々の苦手意識が強かったためあまりいい発言ができませんでした。ゼミなどでの打ち合わせなどは違い、見知りあった人ではないためとても緊張しますし、オンラインだと話すタイミングも難しく、練習なしではなかなかきついです。練習する場もないかもしれませんが、オンラインに様々な人と意見を言える練習はゼミなどでもできると思うのでその練習をしておいた方がいいと思います。あとは基本的に自己分析、業界分析、筆記試験対策、エントリーシートの添削、面接練習などしておいた方がいいとよく言われるものはしておいた方が楽です。</p>

【調査概要】「マイナビ 2022年卒大学生 活動実態調査（10月中旬）」

- 調査期間／2021年10月10日（日）～10月14日（木）
- 調査方法／マイナビ2022の会員に対するWEBアンケート
- 調査対象／2022年3月卒業見込みの全国の大学4年生、大学院2年生
- 有効回答数／2,596名（文系男子547名 理系男子465名 文系女子1,086名 理系女子498名）
- ※調査結果は、端数四捨五入の都合により合計が100%にならない場合があります。

※調査結果の詳細は会社HPのニュースリリース（<https://www.mynavi.jp/news/>）からご確認ください。